

## あとがき

安曇野ちひろ美術館副館長 竹迫祐子

ちひろ美術館の40年を振り返ると、創設の時代に比べ世の中が大きく変化してきたことを実感します。絵本のための絵が、美術作品だと考えられていなかった1970年代。人々が望むのなら、いわさきちひろの作品を、「ささやかであっても人類の遺産のひとつとして位置付けたい」と考えた松本善明。その具体的な形として絵本の専門美術館を構想し、実現させた松本猛、松本由理子。遺族はすべての遺作と、著作権と資産の一部を寄贈し財団を設立して美術館を運営していくという公益的なあり方を示しました。それに賛同する多くの人たちに支えられて、設立された美術館は、「絵本を中心とする文化の民主的・多面的発展に寄与する」ことを目的に掲げスタートします。初代館長の飯沢匡は、画壇の既成概念にとらわれることなく、市井の仏師・円空や放浪の画家・横井弘三を見出した慧眼でいわさきちひろを評価し、同時に、美術館というものの明確なビジョンを持って、今日の基礎を築きました。

これまでに東京、安曇野の両美術館へ足を運んでくださった方は663万人。遠い地で応援して下さる方々を含め、支えてくださったすべてのみなさまに、心からの感謝を申し上げます。

今日、日本では30を超える絵本美術館が誕生し、公立美術館からギャラリーまで、年間400近い絵本原画展が開催され、多種多様な活動が展開する絵本文化の土壌が培われてきています。今秋、国際子ども図書館で開催される、国立国会図書館所蔵の絵巻や奈良絵本から当館所蔵の現代の絵本まで、両館コレクションで迎える「日本の絵本の歩み展——絵巻から現代の絵本まで」は、そのひとつのあらわれと言えるかもしれません。

その一方で、世界には絵本を読むことなど想像もできない境遇に置かれた子どもたちが、今もたくさんいます。日本でも、再び戦争への道が危惧される今日この頃です。

絵本が読めるのは平和だからこそ。ちひろ美術館は、これからも世界中のすべての子どもが安全に暮らし、安心して学べ、遊び、育ち、夢ふくらむ未来を思い描くことができる明日をめざして、活動を行っていきたいと思います。

(公益財団法人いわさきちひろ記念事業財団事務局長)

## ちひろ美術館 40年の歩み 1977-2017

発行日 2017年4月10日

編集 ちひろ美術館(東京・安曇野)

編集協力 久保恵子

印刷 (株)オノウエ印刷

デザイン 島内泰弘デザイン室

写真提供 中川敦玲、嶋本麻利沙、大槻志穂

発行 ちひろ美術館・東京  
〒177-0042  
東京都練馬区下石神井4-7-2  
TEL.03-3995-0612

安曇野ちひろ美術館  
〒399-8501  
長野県北安曇野郡松川村西原3358-24  
TEL.0261-62-0777